

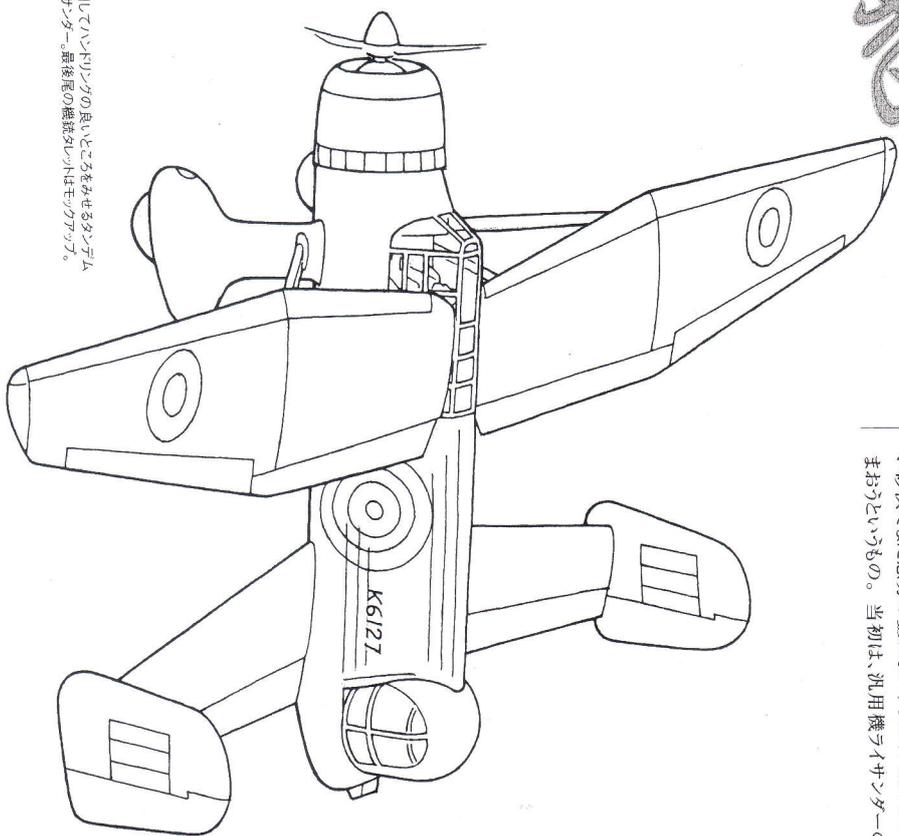
世界の珍機 ④ ウェストランド・タンデム翼ライオンダー

絵と文 首藤 浩 Shudo Hiroshi
1941年★イギリス

女子飛行機の傑作

■開発意図
海岸の撃ちまくり機。敵が本土に上陸して来た時の反撃水際作戦機銃掃射専用機。

■そしてこうなった…
第2次世界大戦中、イギリス軍がドイツ軍侵入に備えた防衛策の一つとして考えた専用兵器で、敵が本土の海岸に上陸して来た時に、隠れ場の無い砂浜でまだ態勢の整わないうちに撃ちまくってしまおうというもの。当初は、汎用機ライオンダーの



巻戻してハンドリングの良いところをみせるタンデム翼ライオンダー。最後尾の機銃タレットはモックアップ。

胴体中央部に、英国自機のホールトンポール動力旋回式4連装機銃タレットを取り付けようと考えた。しかし、それでは射角が限定されてしまった。ことから、射角を最優先にしてこれを最後尾にもってきたので、前はライオンダーで後ろがライオンスターのような怪物ができた。

■僕の感想

日本陸軍は軍用機の整理番号として機体をキ**発動機をハ**と称したが、これはまさにキの字形飛行機。ペーヌはウェストランド・ライオンダーで、キヤンビーから後ろの改造は由緒あるゴーチビルダー、ハンドソンの手になり、最後部に機銃タレットを取り付ける。改造によって、もともと怪しい風采のライオンスターが怪奇さを増し、頭の上に落ちて押しつぶされるのではないかと恐怖を敵に覚えさせる演出効果もある。

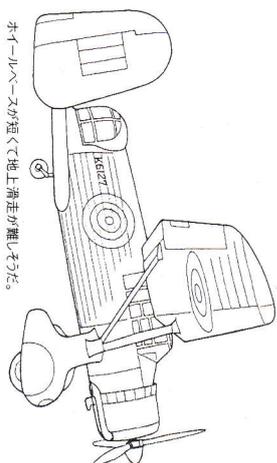
1941(昭和16)年7月27日に初飛行。重心がかなり後退しており、奇怪な姿にもかかわらず良好なハンドリングだったという。その後、軍の試験に回されたが、ドイツ軍侵攻の恐れが遠のいたので生産には移されなかった。

実戦を想像すると、最後尾のタレットに乗った射手は、低空飛行で急旋回する機とともに自分自身も動力旋回式でぐるぐる回りながら射撃するわけだ。かなり飛行機に強くないと酔ってしまう、射撃どころでなくなるのではないかと心配になる。

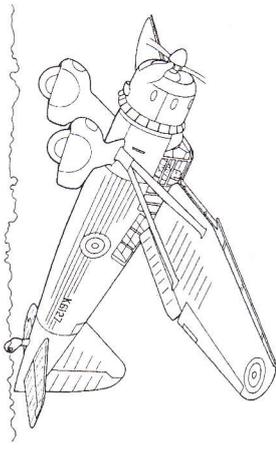
●主要諸元

スパン	50ft 0in (15,240mm)
主脚ノット	9ft 9in (2,972mm)
全備重量	5,920 pounds (2,685kg)
エンジン	フリストル、ローモーター、空冷星形9気筒、890hp
フロアラ	3-ブレード、直径11ft(3,353mm)
最高速度(海面上)	211mph(338km/h)
武装	ホールトンポール動力旋回式4連装機銃タレット、各7.7mm×600発

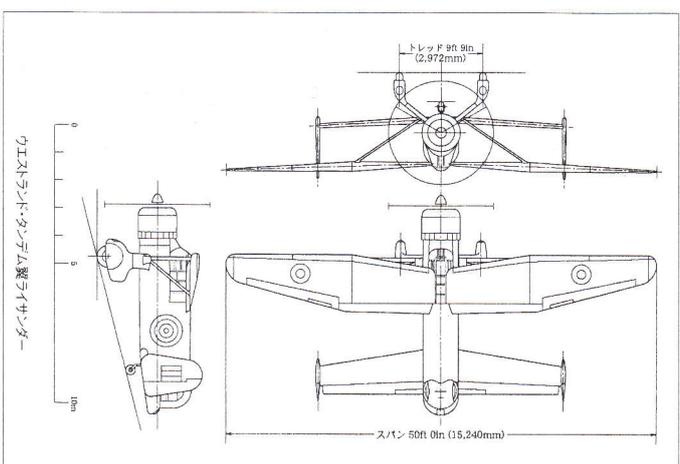
1機のみ試作。



ホールペーヌが短く地上着座が難しかった。



タンデム翼に改造のペーヌとなったのは、このライオンスター機。シリーズ番号K6127、高橋力榮機動員の状態。



ウェストランド・タンデム翼ライオンダー